

計装用プラグイン形変換器 M-UNIT シリーズ

取扱説明書

デジタル設定形、2点/4点警報器、実効値演算形

CT デジアラーム

形式

AS4CT

ご使用いただく前に

このたびは、弊社の製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本器をご使用いただく前に、下記事項をご確認下さい。

■梱包内容を確認して下さい

・変換器（本体+ソケット+CTプロテクタ）.....1台

■形式を確認して下さい

お手元の製品がご注文された形式かどうかスペック表示で形式と仕様を確認して下さい。

■取扱説明書の記載内容について

本取扱説明書は本器の取扱い方法、外部結線および簡単な保守方法について記載したものです。

ご注意事項

●EU 指令適合品としてご使用の場合

- ・本器は測定カテゴリ II（出力、過渡電圧：2500 V）、設置カテゴリ II（過渡電圧：2500 V）、汚染度 2 での使用に適合しています。また、入力-出力-電源間の絶縁クラスは基本絶縁（300 V）です。設置に先立ち、本器の絶縁クラスがご使用の要求を満足していることを確認して下さい。
- ・本器は盤内蔵形として定義されるため、必ず制御盤内に設置して下さい。
- ・高度 2000 m 以下でご使用下さい。
- ・制御盤が相当品に収納し、D 種接地を実施して下さい。
- ・ユニットの電源にはノイズフィルタを入れて下さい（RSAN-2006 TDK ラムダ製または相当品をご使用下さい）。
- ・適切な空間・沿面距離を確保して下さい。適切な配線がされていない場合、本器の CE 適合が無効になる恐れがあります。
- ・お客様の装置に実際に組込んだ際に、規格を満足させるために必要な対策（例：電源、入出力にノイズフィルタ、クランプフィルタの設置など）は、ご使用になる制御盤の構成、接続される他の機器との関係、配線等により変化することがあります。従って、お客様にて装置全体で CE マーキングへの適合を確認していただく必要があります。
- ・遠方より引込む配線には、各種避雷器を設置して下さい。

●供給電源

- ・許容電圧範囲、電源周波数、消費電力
スペック表示で定格電圧をご確認下さい。
交流電源：定格電圧 100 ~ 240 V AC の場合
85 ~ 264 V AC、47 ~ 66 Hz
100 V AC のとき約 4.6 VA
200 V AC のとき約 5.9 VA
264 V AC のとき約 6.8 VA

直流電源：定格電圧 24 V DC の場合 24 V DC \pm 10 %、約 3.5 W
定格電圧 110 V DC の場合 85 ~ 150 V DC、約 3.5 W

●取扱いについて

- ・ソケットから本体部の取外または取付を行う場合は、危険防止のため必ず、電源および入力信号を遮断して下さい。

●CT プロテクタについて

- ・本体をソケットから取外す場合、CT プロテクタが発熱することがありますので、ご注意下さい。

●設置について

- ・屋内でご使用下さい。
- ・塵埃、金属粉などの多いところでは、防塵設計のきょう体に収納し、放熱対策を施して下さい。
- ・振動、衝撃は故障の原因となることがあるため極力避けて下さい。
- ・周囲温度が -5 ~ +55°C を超えるような場所、周囲湿度が 30 ~ 90 % RH を超えるような場所や結露するような場所でのご使用は、寿命・動作に影響しますので避けて下さい。

●配線について

- ・配線は、ノイズ発生源（リレー駆動線、高周波ラインなど）の近くに設置しないで下さい。
- ・ノイズが重畳している配線と共に結束したり、同一ダクト内に収納することは避けて下さい。

●その他

- ・本器は電源投入と同時に動作しますが、すべての性能を満足するには 10 分の通電が必要です。

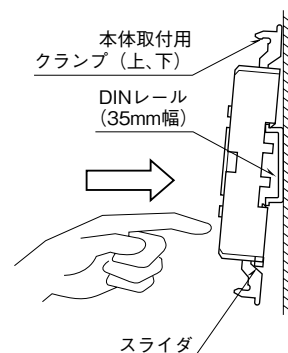
取付方法

ソケットの上下にある黄色いクランプを外すと、本体とソケットを分離できます。

■DIN レール取付の場合

ソケットはスライダのある方を下にして下さい。ソケット裏面の上側フックを DIN レールに掛け下側を押しして下さい。

取外す場合はマイナスドライバーなどでスライダを下に押下げる状態で下側から引いて下さい。

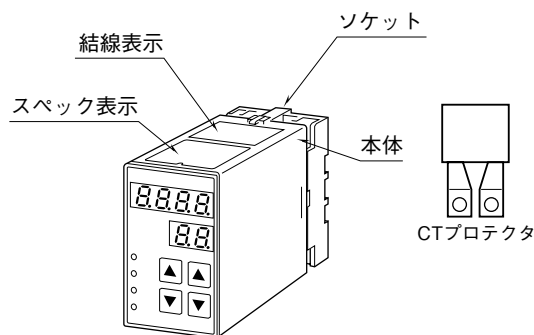


ソケットの形状は機種により多少異なることがあります。

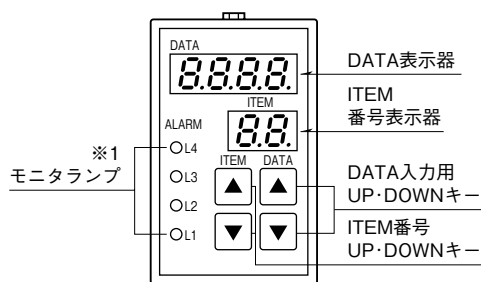
■壁取付の場合

外形寸法図を参考に行って下さい。

各部の名称



■前面図と設定方法



※1、2点警報形の場合はL3、L4は点灯しません。

●設定方法

- ① ITEM ▲または▼で 01 を表示
 - ② DATA ▲または▼で 1 を表示→警報設定値だけ変更するとき
2 を表示→DATA を変更可能にするとき
 - ③ ITEM ▲または▼で変更したい ITEM 番号を表示
 - ④ DATA ▲または▼で入力したい DATA を表示
 - ⑤③→④を繰り返す。
(キー操作完了 1 秒後に DATA が格納されます)
 - ⑥ ITEM ▲または▼で 01 を表示
 - ⑦ DATA ▲または▼で 1 を表示
 - ⑧ ITEM ▲または▼で P を表示 (DATA は PV を表示)
(この状態で ITEM ▲または▼で DATA を表示・確認できます)
- 注) 同時に 2 つ以上のボタンを押さないで下さい。

ITEM	変更	DATA	項目	初期値
P	—	-1999 ~ 9999	入力値実量表示 (ITEM 07、08 でスケールした値を表示)	—
L1	1、2	-1999 ~ 9999 *1	L1 警報設定値(実量)	4点: 20.0 2点: 20.0
L2	1、2	-1999 ~ 9999 *1	L2 警報設定値(実量)	4点: 30.0 2点: 80.0
L3	1、2	-1999 ~ 9999 *1	L3 警報設定値(実量)*2	4点: 70.0
L4	1、2	-1999 ~ 9999 *1	L4 警報設定値(実量)*2	4点: 80.0
01		0 ~ 2	DATA 設定の範囲 0: DATA 表示のみ可能 1: ITEM L1 ~ L4 のみ可能 2: 変更欄“2”の DATA 変更が可能	1
02	—	0 ~ 99	ステータス表示(通常 0 を表示する) 0: 正常 1: メモリ異常 10: 入力 -15 ~ +115 % の範囲外	
03	—	6、7	入力の種類 6: S1 7: S5	
04	—	-15.0 ~ 115.0	入力 % 表示 (ITEM 27、28 で設定した値を表示)	—
05	2	-19.99 ~ 99.99	ゼロ調整 (%) (ITEM 27 で設定した値を微調整)	0.00
06	2	0.000 ~ 9.999	ゲイン調整(倍) (ITEM 28 で設定した値を微調整)	1.000
07	2	-1999 ~ 9999	0 % スケール値設定 (ITEM 05、06 で設定した値をスケール) (ITEM 08 より小さい値を設定)	0.0
08	2	-1999 ~ 9999	100 % スケール値設定 (ITEM 05、06 で設定した値をスケール) (ITEM 07 より大きい値を設定)	100.0
09	2	0 ~ 3	表示形式(小数点以下の表示桁数を設定) 0: XXXX 形式 1: XXX.X 形式 2: XX.XX 形式 3: X.XXX 形式	1
10	2	0 ~ 99	電源 ON デイレー時間(秒、L1 ~ L4 共通)	5
11	2	0 ~ 99	警報 ON デイレー時間(秒、L1 ~ L4 共通)	0
12	2	0 ~ 4	移動平均機能(100 ms/回) 0: なし、1: 4 回、2: 8 回、3: 16 回、4: 32 回	0

ITEM	変更	DATA	項目	初期値
13	2	0、1	L1 警報動作(0: 下限、1: 上限)	4点: 0 2点: 0
14	2	0、1	L2 警報動作(0: 下限、1: 上限)	4点: 0 2点: 1
15	2	0、1	L3 警報動作(0: 下限、1: 上限) ^{*2}	4点: 1
16	2	0、1	L4 警報動作(0: 下限、1: 上限) ^{*2}	4点: 1
17	2	0、1 ~ 60	消灯モード時の表示時間 0: 連続 ^{*3} 、1 ~ 60: 表示時間(分)	10
18	2	0、1	L1 警報時励磁方向(0: 励磁、1: 非励磁)	0
19	2	0、1	L2 警報時励磁方向(0: 励磁、1: 非励磁)	0
20	2	0、1	L3 警報時励磁方向(0: 励磁、1: 非励磁) ^{*2}	0
21	2	0、1	L4 警報時励磁方向(0: 励磁、1: 非励磁) ^{*2}	0
22	—	—	バージョン表示	—
23	2	1 ~ 9999	L1 ヒステリシス幅設定(実量)	1.0
24	2	1 ~ 9999	L2 ヒステリシス幅設定(実量)	1.0
25	2	1 ~ 9999	L3 ヒステリシス幅設定(実量) ^{*2}	1.0
26	2	1 ~ 9999	L4 ヒステリシス幅設定(実量) ^{*2}	1.0
27	2	S1: 0.00 ~ 1.00 S5: 0.00 ~ 5.00	0% 入力設定(0% 時の入力電流を設定) (ITEM 28 より小さい値を設定)	S1: 0.00 A S5: 0.00 A
28	2	S1: 0.00 ~ 1.00 S5: 0.00 ~ 5.00	100% 入力設定(100% 時の入力電流を設定) (ITEM 27 より大きい値を設定)	S1: 1.00 A S5: 5.00 A

* 1、設定可能範囲はスケール値設定で設定した範囲内

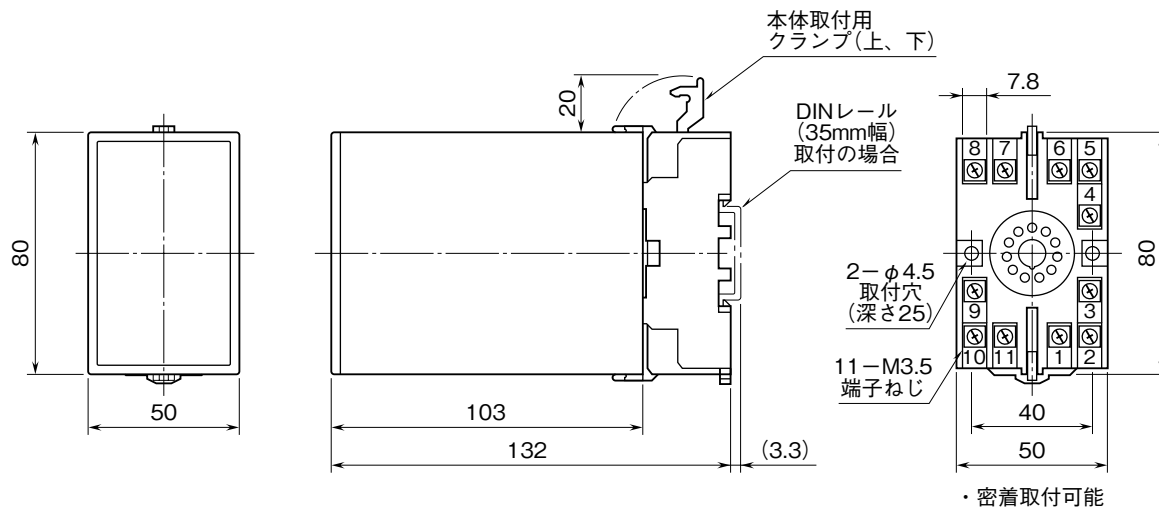
* 2、4点警報形の場合のみ

* 3、電源 ON 時は消灯しています。電源投入後、いずれかのキーを押すと連続点灯します。

接 続

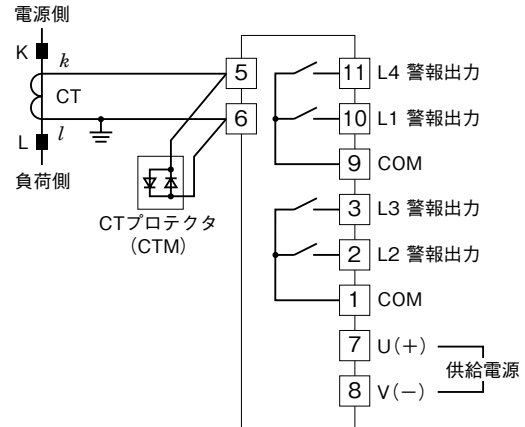
各端子の接続は端子接続図もしくは本体上面の結線表示を参考に行ってください。
入力配線と CT プロテクタ (CTM) とを端子ねじで共締めして下さい。

外形寸法図 (単位: mm)

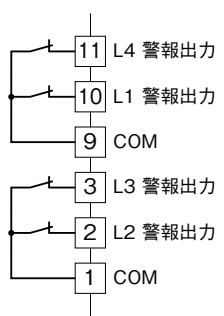


端子接続図

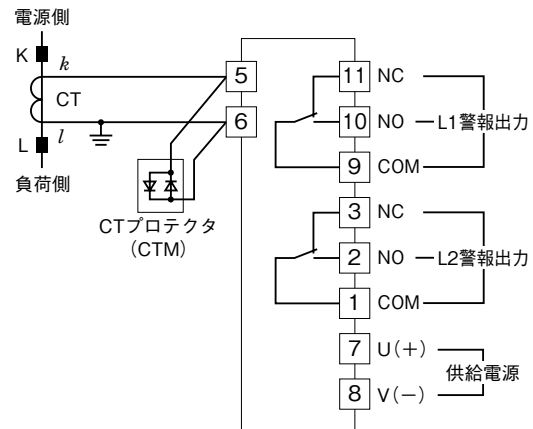
■リレー-a接点出力



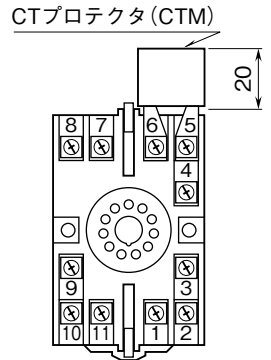
■リレー-b接点出力



■リレー-c接点出力



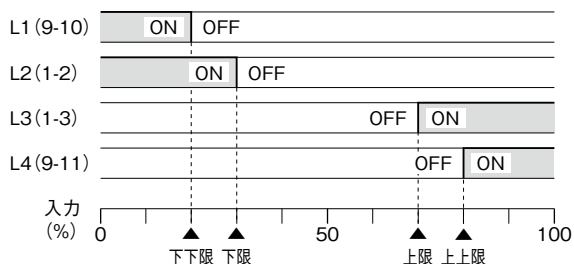
端子番号図 (単位: mm)



点 検

- ①端子接続図に従って結線がされていますか。
- ②供給電源の電圧は正常ですか。
端子番号⑦～⑧間をテスタの電圧レンジで測定して下さい。
- ③入力信号は正常ですか。
入力値が0～100%の範囲内であれば正常です。
入力端子からケーブルを外す場合は、一次CTが焼損しないように、CTの二次側を短絡するか、一次側の電流を切ってから行って下さい。
- ④警報出力信号は正常ですか。
警報動作を下図により確認して下さい。
- ⑤警報出力負荷は正常ですか。
380 V AC 120 VA、125 V DC 30 W 以下 (EU 指令適合品のときは電流値 0.5 A 以下) であれば正常です。負荷が誘導性負荷のときは、接点保護のため火花消去処理を施して下さい。

4点警報a接点で下下限、下限、上限、上上限警報を構成した場合の動作例： () 内は端子番号



停電時動作：

- ・出力信号コード2は各接点ともOFF
- ・出力信号コード3は各接点ともON
- ・出力信号コード5は(1-3)、(9-11) ON

保 守

定期校正時は下記の要領で行って下さい。

■校 正

10分以上通電した後、下記の要領で警報動作をご確認下さい。

上限 (上上限) 設定値の確認

入力信号を0%側から徐々に上げてゆき、規定の設定精度定格範囲内で警報動作を行うことを確認して下さい。

下限 (下下限) 設定値の確認

入力信号を100%側から徐々に下げてゆき、規定の設定精度定格範囲内で警報動作を行うことを確認して下さい。

警報動作が設定精度から外れている場合は、最寄りの代理店または弊社までご相談下さい。

雷対策

雷による誘導サージ対策のため弊社では、電子機器専用避雷器<エム・レスタシリーズ>をご用意致しております。併せてご利用下さい。

保 証

本器は、厳密な社内検査を経て出荷されておりますが、万一製造上の不備による故障、または輸送中の事故、出荷後3年以内正常な使用状態における故障の際は、ご返送いただければ交換品を発送します。